

「生物教育」投稿原稿作成要領

「生物教育」に投稿する際には、以下の要領で原稿を作成して下さい。この作成要領の指示に従っていない原稿は受け付けられませんので、ご注意下さい。

1. 原稿とは別に、次の①～⑤を記した投稿票（投稿票様式参照）をつけて下さい。①投稿区分、②表題、③著者（著者が複数の場合には著者全員*）の氏名と所属、④連絡先（著者が複数の場合には、責任者の名前とその連絡先）の住所*と電子メールアドレス（必須）および電話番号、⑤投稿原稿の本文・英文要旨・図および表などの枚数。

* 日本生物教育学会では、共著者にも会員になっていただくようお願いしております。

**編集委員会(事務局)からの連絡や初校などはすべて④の電子メールアドレスに届けられます。

2. 原稿の体裁

(1) ワードプロセッサ等を使って原稿を作成して下さい。原稿は A4 判の紙を縦位置で上下 2.3cm・左右 2.0cm 以上のマージン（余白）を設定して下さい。

(2) 第 1 ページには、表題と著者名および著者の所属を書き、脚注として著者（共著の場合には責任著者）の連絡先を書いて下さい。

(3) 第 2 ページの冒頭は英文表記の著者名、発表年、論文表題で始めてください。総説と研究論文には英文要旨と英語キーワード（5 個以内）を必ずつけて下さい。研究報告・研究資料にも英文要旨と英語キーワード（5 個以内）をつけることができます。英文要旨をつけない研究報告・研究資料および会員の広場の原稿にあっても、英文の著者名・表題と連絡先は必須です。

(4) 英文要旨は、1 行約 70 文字（半角文字）で 20 行（およそ 200 語程度）以内とします（これを超えたものが提出された場合には、削っていただくことがあります）。英文要旨に引き続き、5 つ以内のキーワード（key words, アルファベット順）、著者（共著の場合は責任著者）の名前（フルネーム）および連絡先の順に書いて下さい。英文原稿は、英語を母国語とする人またはこれに準ずる人による英文添削または校閲を経たのち提出して下さい。

(5) 英文要旨に引き続き、本文を書き始めて下さい。本文開始行から、以下のように設定して下さい。1 行 25 文字、1 ページ 49 行 2 段組で作成して下さい。この体裁の原稿 1 ページがほぼ印刷冊子 1 ページに相当します。委員会はこの方法による投稿を推奨いたします。なお、通常の文字と 1 桁の数字は全角、2 桁以上の数字とローマ字（英文）は半角文字を使用して下さい。学会のウェブページ（投稿規定・原稿作成要領（<http://sbsej.jp/publish/post-rule.html>））に掲載し

た作成要領に準拠した MS ワードによるひな形を掲載してあるので、活用して下さい。

(6) 総説、研究論文及び研究報告・研究資料の稿末には和文要旨が必要です。この和文要旨は、1 行 43 文字（全角文字）で 20 行以内とします（これを超えたものが提出された場合には、削っていただくことがあります）。

(7) 本文の文体は「…である」調とし、常用漢字（学術用語は除く）、現代仮名遣い、「送り仮名のつけ方」などに基づく標準的な書き表し方で書いて下さい。常用漢字音訓表にない漢字の使用は極力避け、やむを得ず使用する場合にはルビをつけて下さい。また、句読点には「，」「。」を使用して下さい。本文の記述には、箇条書きを極力用いないでください。

(8) 章、節、項には I, 1, (1) の順に見出しをつけて下さい。

(9) 学術用語は、できるだけ文部科学省学術用語集 動物学編（日本動物学会編、丸善）、植物学編（日本植物学会編、丸善）、遺伝学編（日本遺伝学会編、丸善）及び生物教育用語集（日本動物学会・日本植物学会編、東京大学出版会）に従って下さい。生物名はカタカナ書きとし、初出の箇所には原則として学名を併記して下さい。外国の人名などは原則として外国綴りのままとしますが、カナ書きでも差し支えありません。ただし、1 つの原稿の中では、書き方を統一して下さい。

【例】

生物名：アナアオサ (*Ulva pertusa* Kjellman)

人名：Watson またはワトソン

3. 文献の参照・引用

本文などの中で文献の参照・引用を行う場合には、次のようにして下さい。なお、文献からの文章の引用は必要最小限にして下さい。

【例】今堀（1984）は……；……が研究されている（清水 1985）。；日浦（1980）によれば……；Aston と Robinson（1986）および Jones ら（1992）によれば……；……と報告されている（Aston & Robinson 1986）；……と考えられる（Jones et al. 1992）など

また、本文中で参照・引用した文献などは、本文の後に「文献」として、著者のアルファベット順に列挙して下さい。雑誌中の 1 論文、論文集や複数の著者による単行本中の 1 論文・1 章、単行本では、参考文献の書き方が違います。次の様式に従って下さい。

【雑誌中の 1 論文】

（和文）今堀宏三（1984）これからの生物育と日本生物教育学会の役割。生物教育 25（1）：1-2。

（外国語）Aston, T.J. and Robinson, G. (1986)

Teaching light compensation point: a new practical approach. J. Biol. Educ. 20(3): 189-194. [姓, 名 (Family name, initials of forename.) (出版年) 論文表題. 雑誌名. 巻 (号) : 掲載ページ] 外国雑誌名の省略は, その雑誌の方法に従って下さい (その雑誌に掲載されている論文の文献欄などから探してください).

〔論文集や複数の著者による単行本中の1論文・1章〕

〈和文〉清水芳孝 (1985) マツバボタン. 今堀宏三・山田卓三・山極 隆 (編) 『生物観察実験ハンドブック』 pp.102-103. 朝倉書店. [著者 (出版年) 章の表題. 編者『書名』掲載ページ. 出版社.]

〈外国語〉Tanner, C. E. (1981) Chlorophyta: Life histories. Lobban, C. S. and Wynne, M. J. (Eds.) "The biology of seaweeds" pp.218-247. University of California Press, Berkeley. [著者 (出版年) 章の表題. 編者“書名”掲載ページ. 出版社, 出版社の所在地]

〔単行本〕

〈和文〉日浦 勇 (1980) 自然観察入門第9版, (中公新書389), p.51. 中央公論社. [著者 (出版年) 書名 版数 (新書や講座などは, その名称と巻数), 掲載ページ. 出版社.]

〈外国語〉Link, M. (1978) Outdoor Education, pp.12-31. Prentice Hall Press, New York [著者 (出版年) 書名 版数, 掲載ページ. 出版社, 出版社の所在地.]

〈訳本〉田宮信雄・八木達彦 (訳) (1987) コーン・スタンプ生化学第4版 (Conn, E.E. and Stumpf, P.K. (1976) Outlines of biochemistry, 4th Ed. John Wiley & Sons, Inc.), pp.392-420, 東京化学同人. [訳者 (訳本の出版年) 書名 版数 (原書の著者名 (出版年) 書名 版数. 出版社.), 訳本の掲載ページ. 出版社.]

1冊の単行本の異なるページを何度か参照・引用する場合には, 文献欄にはページを示さず, 本文中で「日浦 (1980, p. 51, 図8) によれば……」のように該当ページを示して下さい.

〔ホームページ (ウェブページ) の引用〕

ページタイトルの後に URL を記し, アクセス西暦年月日を付して下さい. たとえば,

生物教育学会 <http://www.seibutsukyoku-u.ac.jp/>
(アクセス 2014.04.01.)

とします.

著者が3名以上の場合, 本文中では, 大木ら, Jonesらというように省略しますが, 文献欄では省略しないで下さい. しかし, 著者数が非常に多い出版物、たとえば教科書のような文献を引用する際には, 筆頭著者1名を記し, ……ほかとして記載してください. 欧文では半角コンマや半角ピリオドなどに引き続いて必ず半角スペースを挿入してください.

なお, 本文中では参照・引用していない文献で, 読者の参考になると考えられるものは, 「文献」とは別に

「参考になる文献」として紹介してもかまいません. また, 書籍 (雑誌・論文集・単行本など) 以外の印刷物, たとえば学会の大会の予稿集・配布資料や装置の説明書・カタログなどを参照・引用した場合には, 「文献」とは別に「参考にした資料」として列挙して下さい.

4. 書体の指定

印刷の文字は, 特に指定のない限り和文は明朝, 欧文はローマンです (この文書の本文に使われている書体です). ゴシック (ボールド) やイタリック (斜体) を指定する場合には, 下の【例】にならって波線又は罫線で指示して下さい. なお, 雑誌の巻数はゴシック (ボールド), 学名の属名と種小名はイタリック (斜体) の指定をして下さい.

【例】

ゴシック: I はじめに …… , 生物教育 35(1):XX-XX

イタリック: *Ulva pertusa* Kjellman

5. 図 (写真を含む) と表について

印刷サイズは最大でおおよそ幅 14 cm (2段分) または 6.5 cm (1段分), 縦 20.5 cm です. タイトルと説明のためのスペースを含めてこの範囲に納まるように図・写真や表を作成して下さい. 写真や図・表の中の文字の大きさや線の太さは, 判読できる大きさや太さとなるように, 体裁よく仕上げて下さい.

図・写真のタイトルは図・写真の下部に, 表のタイトルは表の上部に付けてください. 図・写真の解説や凡例はタイトルの続きに, 表の脚注は表の下部に, 文章にしてつけて下さい. 図・写真や表には, 読み取りの手助けになるような親切な説明を付けてください.

表の罫線は, できるだけ横線のみとして下さい. また, グラフの軸線や近似直線, あるいは曲線などは同じ太さの線を指定してください. グラフのデータポイントや領域は, 形やハッチング (パターン) で識別してください. 決して色の塗り分けで識別しないでください.

写真や図表は, モノクロ (白黒) を原則とします. カラー原稿はカラーで印刷され, カラー印刷の割増料金が発生します. コンピュータ画面の撮影は, 可能な限り大型かつ高解像度の画面に大きく表示した上で作成してください. どの写真も, 印刷サイズで解像度が 150 dpi 以上であるように留意してください (300dpi 以上の解像度を推奨します).

査読用原稿は, 上記のスタイルの図や表を本文中に埋め込んだ文書を作成して, 図表のファイルと共に投稿してください.

添付した図や表は必ず本文で引用して下さい. 本文中での引用は次の例に従って下さい.

【例】

……には著しい違いがみられた (図1). ; 表2は, 実験群と非実験群の…… ; 図3と4から以下のように考えることができる……

「結果は図に示した (図1).」のような1文で結果を

示すような論文は受理されません。図・写真や表の体裁の詳細は最新の「生物教育」に掲載されたものを参考にしてください。

6. 受理された原稿について

投稿原稿が、査読や校閲を経たのちに受理されたときは、原稿を電子ファイルとして電子メールに添付して指定アドレスに送信するか、光ディスク（CD-ROMなど）やメモリーカード（SDカード）などに保存して編集委員会（事務局）まで送付下さい。ファイル転送サービスはサービス期間中に投稿に気づかず、ファイルの取得に失敗することがあることをあらかじめご了承ください。

なお、写真や図表（と写真や図表とともにレイアウトするタイトルや説明文などを含みます）は本文中に貼り込まず、別のファイル（ファイル名”図1.jpg”，”表1.xlsx “など）として保存してください。図・表の挿入位置は本文の余白に赤字で「図1」などと指定して下さい。また、図・写真や表のタイトルと説明文など、写真や図表とともにレイアウトする文は、”図・表の題と説明.docx”などと名付けた1つの文書ファイルにまとめて添付してください。

7. 研究論文の要件について

生物教育投稿規定では、投稿原稿を5つの区分（カテゴリー）に分けています。このうち、研究論文とほかの区分（特に研究報告・研究資料）とを分ける基準は、投稿原稿が論文の要件を満たしているか否かという点にあります。「投稿原稿が論文の要件を満たしている」ということは、原稿の本文が生物科学分野の論文の形式を踏襲しているという意味ではありません。投稿される論文の内容によっては、本文の形式が、「はじめに（あるいは序論や緒言）・方法（あるいは材料と方法）・結果・考

察（討論）」とならないこともあるでしょう。本学会の投稿規定で「論文の要件を満たしているもの」とは、次の条件を満たしているものです。研究論文を作成する際には、これらの条件に留意して下さい。

- (1) その研究に独創性がある、あるいは新しい問題を提起していること。
- (2) 研究目的が明確に示されており、その目的が達成されていること。
- (3) 教材や実験の開発、教育現場での実践を通したそれらの評価などを取り扱った場合には、方法や研究成果に普遍性のあること（一般化できること）が示されていること。

著者は、これらを「はじめに（緒言）」および「考察（討論）」などでわかりやすく示して下さい。具体的には、「はじめに（緒言）」で先行研究の内容を検討し、当該分野における問題点（解決すべきことがら）や著者の研究の位置づけを明瞭にし、「考察（討論）」でその研究で明らかになったことを先行研究の内容と比較検討して下さい。

研究論文の査読者が、論文の独創性の有無あるいは新しい問題を提起しているか否かを判断する際には、著者が雑誌の関連論文や基本的な単行本の関連箇所十分に目を通して、すでに発表されている研究成果のどこを補おうとしているか（どこを補ったのか）、あるいはそれらの研究成果との異同を明らかにしているか、という点を重視します。すでに報告されている研究と類似していて、その研究との差異が明確ではないものや、よく知られていることがらが主題となっているものは、「独創性がある」「新しい問題を提起している」とはみなされません。